

File 12 / (株)正直屋グループ

幾多のピンチをチャンスに変えて 激動の時代を生き抜く

関東大震災、終戦という非常事態を女性の活躍で切り抜け、狂牛病、東日本大震災、コロナ禍といった大逆風も進取の気分で乗り越える…。その根底にあるのは、普遍的な価値観と屋号に込められた誠実な心。先達の智慧を受け継ぎ、新たな時代を見ずえて飲食業を牽引する4代目の山崎 誠司社長にお話をうかがった。



Profile

山崎 誠司 (やまざき せいじ)

代表取締役社長

1969年、さいたま市(旧浦和市)生まれ。千葉大学を卒業後、銀行勤務を経て、28歳で正直屋グループの取締役として入社。先代の前社長とともに経営に従事。2024年、前社長逝去に伴い、(株)東京正直屋の代表を引き継ぎ、現在は(株)正直屋グループ4社の代表を務める。

赤羽から北浦和へ

先達の先見性が導いた事業展開

曾祖母・山崎 タメが1924年に、関東大震災後の混乱が残る赤羽駅前で「人様のお役に立つ働きをしたい」と開いた食堂「正直家」がルーツです。その娘・トモが腕の良い料理人の城之助と結婚して割烹仕出しも手がけ、近隣の大きな軍施設や高級将校から陸軍諸官庁御用商人として重用されて家業は大いに発展。ですから創始者をタメ、城之助・トモを創業者と位置付けています。

太平洋戦争で戦死した城之助が生前、事業拡大と発展の為土地を手配していた北浦和で、1948年に一族が力を合わせて(株)正直屋を設立。大衆食堂をはじめレストランや給食など、時代の要請に応じて多角的に飲食事業を展開しました。70年代には中山道沿いに宴会場や和室もある4階建てのビルを建設し、披露宴や寄席、祭り会場として地域密着型の商売を展開。近隣には浦和高校や埼玉大学があり、同窓会や社交の場としてもにぎわい、その立地を背景に本や文具を扱う文教関連事業も手がけ、盛況を見せました。赤羽といい北浦和といい、時代に沿い地の利を見極めた先達の慧眼は見事なものだと思います。



北浦和に移転した昭和40年代の正直屋。この頃から、多角的な飲食事業を展開し始めた

正直屋を設立。大衆食堂をはじめレストランや給食など、時代の要請に応じて多角的に飲食事業を展開しました。70年代には中山道沿いに宴会場や和室もある4階建てのビルを建設し、披露宴や寄席、祭り会場として地域密着型の商売を展開。近隣には浦和高校や埼玉大学があり、同窓会や社交の場としてもにぎわい、その立地を背景に本や文具を扱う文教関連事業も手がけ、盛況を見せました。赤羽といい北浦和といい、時代に沿い地の利を見極めた先達の慧眼は見事なものだと思います。

中小企業としていち早く取り組んだ 経営計画書策定と企業理念の制定

創始者、創業者を継いで3代目社長となった父・正之は、「お客様第一主義」のもとにスーパーマーケットや飲食業を地元密着型で展開し、中小企業としていち早く経営計画書の策定も進めました。需要が高まったケータリングや仕出し事業にも進出。1981年には(株)東京正直屋を設立し、東京を中心に千葉県、埼玉県を含めた南関東に商圏を拡大していきました。

経営計画は現在も毎年策定しており、わが社の羅針盤です。事業の多角化や商圏の広がりでも多様な職種の従業員が働くようになり、1977年には企業として統一的な経営姿勢を表す経営理念および社是を成文化。それが今日も大切にしている「天然自然の理にかなった経営」であり、お客様第一主義に徹した経営へとつながっています。

老舗企業としての経験と胆力で 地域経済の活性化に貢献する

私が入社した2000年ごろから多彩な郊外型飲食チェーンの展開を活性化し、焼肉店を開いて1周年を迎える矢先、狂牛病騒動に見舞われました。飲酒運転罰則の厳格化や大型店舗の進出などでお客様の流れが変わったこともあり、事業の重点をケータリングや仕出し事業に転換。2012年に東京・練馬区に最新の冷凍技術を活用した「料亭工場」を稼働し、コンセプトショップとして「銀座割烹里仙」を開店しました。2013年から冷凍おせちをはじめ高級冷凍食品の販路を広げるなど事業が順調に動き出していたところに、今度はコロナ禍が直撃です。それも事業を見直す好機と捉え、現在は新たな成長戦略としてM&Aにも本格的に取り組んでいます。



中核事業のケータリングは華やかで本格的な和・洋・中のパーティー料理のみならず演出・設営にも定評がある

昨年、父の逝去に伴い社長に就任してあらためて老舗企業の存在感に気づき、地元密着の飲食業として県内の100年企業を応援する取り組みも始めました。これからも先達から受け継いだ商いの心を大切に、多様化する顧客ニーズやインバウンドといった環境変化にも柔軟に対応していきたいですね。